年　　組　　班

（代表者氏名　　）

知立市への政策提言

提言

住みやすいまちづくりを市民(主に青年世代)が主体となっておこなう

ねらい

以下にみられる知立市の３つの現状と問題点により、地域住民(主に青年世代)が主体となって持続可能なまちづくりを行い、市民と市が相互に理解し、また助け合って行くことをねらいとします。

（知立市の問題点）

〇　知立市に関わりのある人の市政に対する意識が低い

・知立市の未来を考えている「『知立市ＳＤＧｓ未来都市計画』を知っていますか」というアンケートを知り合いの１０代から８０代の男女４０人に行ったところ、「はい」と答えたのは４人のみ。

〇　知立市の市政に不満があっても、どこに言えばよいか分かりづらく、「市民報告会」などはハードルが高く利用しづらい。

・そのため、市民のリアルな意見やあまりでなくなり、市政と市民の意識の「ねじれ」が発生する

〇　知立市の「中学生議会」や「高校生議会」で行われている話し合いで意見を言った若者は持続的に市に関わろうとしていない実態がある→単発的になってしまっている。

・そういった機会を通じて出た意見や提言がどれくらい実現されているのかわからない。

方法

○　青年世代が知立市の政策や取り組みについて話し合える・意見を言える場を作る

具体策

○　知立東高校の生徒会や各委員会が知立市とつながり、青年世代の先陣を切る→知立市内の他の高校や中学校の生徒会や委員会と協力し、青年議会に参加する

○　中高生などの若者世代を中心とした「青年市民議会」を開催し、高校・中学ごとで課題を話し合う

○　２ヶ月に１回常会を開催し、日頃思っていることや考えていることの意見交換をする。市主催のイベントがあるときや各学校でイベントがあるときに臨時会を開催する。こういった取り組みを続けることで、若者が持続的に市と関わることができる。

→さらに高齢者施設や保育園などを訪れ、現状を調査するなどし、活動範囲を広げ、新たなコミュニティを構築していく

予想される効果

○　市民の意見がまちに反映されるようになる

○　若者世代が市政に参加し、興味をもつようになる

○　市民同士、また市民と市政がお互いに意見をかわすことができるようになる

課題

○　開催する場所はどこが適しているのか、開催する時期・期間は適切なのか

○どのようにして知立市内の高校や中学校の生徒会や委員会とつながっていくか、また新しいコミュニティをどのようにして構築していけばいいのか